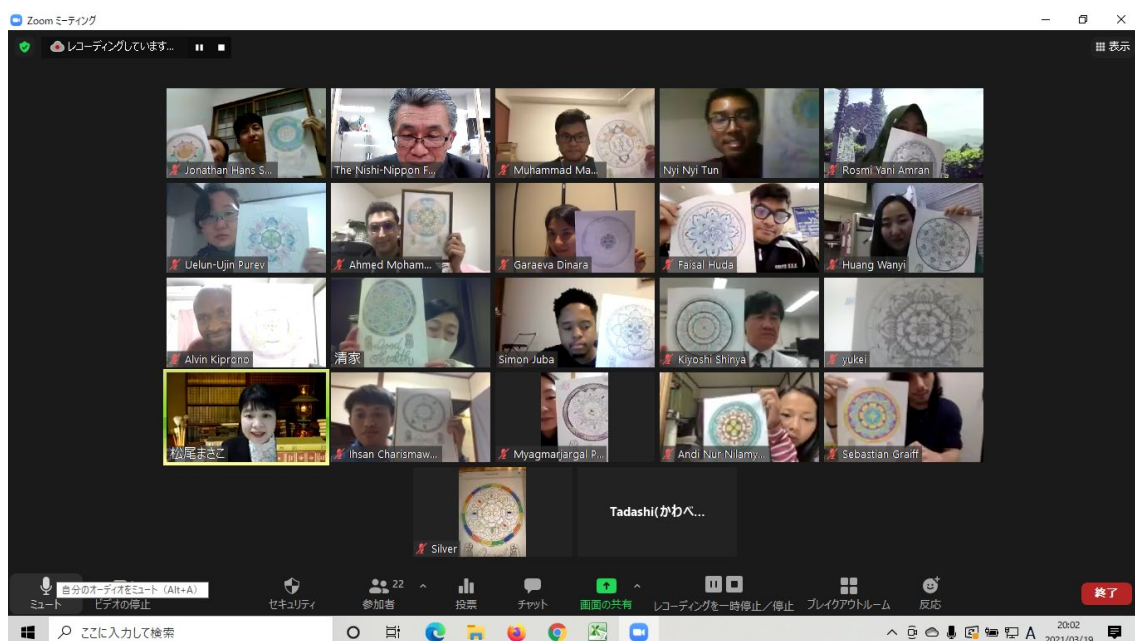


国際交流クラブ3月例会（第2回）の実施報告

3月19日(金) 午後6時半から当財団主催の国際交流クラブ第2回例会をオンラインで実施しました。今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年7月に続き対面でのワークショップではなく、Zoomを使ったオンライン形式での例会となりました。テーマは「オンライン曼荼羅アートワークショップ」と題して、アーティストの松尾まさこ先生にお願いして開催しました。コロナ禍で大学や日本語学校の授業はオンラインとなり、多くの留学生は、母国には帰れず自粛生活を1年以上余儀なくされており、精神的なストレスやホームシック等様々な心の悩みを抱えながらも、対面での交流も出来ず相談する人もいないといった状況に置かれているようです。

今回、そのような心の悩みを抱えているであろう留学生のために、心の癒しとなり、無心になって絵を描くという仏教画「曼荼羅アート」の実体験をオンラインで実施し、リラックスした気分やストレスを発散してもらうこととしました。参加したのは九州大学留学生会と福岡県留学生会から25名の留学生で、国籍はインドネシア、ベトナム、中国、ラオス、エジプト、ミャンマー、フィリピン、バングラデシュ等と多彩でした。

参加した25名近い留学生は松尾先生の指導を受けながら、事前に配布していた下書き紙にパステル、クレヨン、ボールペンを使って思い思いの色使いで曼荼羅アートを制作しました。制作したアートは用意していた額縁に入れてFacebookに設置した「オンライン文化交流クラブ」のページに各自アクセスして自分の曼荼羅アートをアップすれば松尾先生からコメントをもらえるようにしてワークショップ後も交流できるように工夫しました。オンラインなので実地で目の前で習うことができず、もどかしい様子ではありましたがコロナ禍で自宅学習が続く中、つかの間の心の癒しにつながったのではないかと思います。今回の曼荼羅アートワークショップは参加者の満足度も非常に高いものだったことは事後のアンケートでも出ていました。



曼荼羅アートの出来栄を披露する留学生たち(Zoom画面)